

「丹後活動プラン」4つのプログラムで明日の丹後づくりを進めています。

丹後活動プランの推進について

丹後広域振興局では、昨年3月に策定した地域の振興計画である「丹後活動プラン」に基づき、地域の課題に対応した施策を管内市町や関係機関、府民の皆さんと一体となって推進しています。昨年10月に活動プランの推進母体として「丹後活動プラン推進委員会」を設置し、委員の皆さんや関係機関の意見も踏まえ進めており、これからも振興局と管内市町、関係機関、府民の皆さんの連携を一層強め、4つの推進プログラムを軸にして、地域全体で新たな丹後づくりを進めていきます。

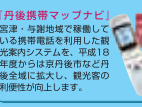
～地域外からの注目を高める～

たんと新観光戦略プログラム

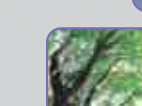
地域資源の選別・拡大による丹後の新たな観光戦略の展開

地域資源を活かした新しい丹後づくり

「リフレッシュエリア丹後」推進調査検討事業
地域資源を活用して丹後の魅力を定着させるために、学識者や地域住民、旅館業者などで検討委員会を設置し、丹後地域全体を人々の健康・癒しのエリア「リフレッシュエリア丹後」としてイメージ形成を行い、今後の展開とその可能性についての議論を進めています。



「丹後携帯マップナビ」
宮津・丹波地域で稼働している携帯電話を利用して観光案内システムを、平成18年度からは京丹波市など丹後全域に拡大し、観光客の利便性が向上します。



旧加悦鉄道2号貨物線が国の重要文化財に指定されました。
地元では、S12号機を新たな観光資源として活かすためシンボリックな開発するなど、観光協会や関係機関が連携した様々な取組を進めています。

観光資源の連携による丹後づくり

観光丹後の新時代を拓く人とプランの開発推進事業
大学生のフィールドワークによる新たな観光ルートの検討や若手事業者と関係団体の参加による「丹後観光塾」を開催し、人材育成と新たな観光プランの開発に取り組んでいます。



丹後広域観光キャンペーン
丹波広域観光キャンペーン開催では、大雪により大きな影響を受けたことから、観光協会と共同して、あたたかいおせわをしながら丹後の冬の魅力を伝えました。また、地元旅館の女将でんに協力いただきJR大船駅での誘客キャンペーンや駅内フリーホステアの演出を行いました。

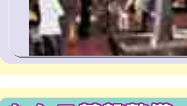
地元水産業と旅館の連携
伊根町漁入地区では、旅館と連携して地元産品が作る高品質の旅館食を、海の傍の旅館食として観光客へ提供しています。今年度は、利用者が大きく増加し、丹後の新たな名物として定着しつつあります。

～地域内の力を高める～

たんと地域産業支援プログラム

地域産業の連携・展開・創業を推進し、支援していく丹後づくり

「和の服というモノ」展を開催
丹後デザイン商品開発プロジェクトの一環として、産地内機業4社とときの創作プロデューサーとの協働により従来の「和服」という枠を超えファッション性が高い「和の服」の展覧会として開催し、現在のライフスタイルへの定着を目指します。



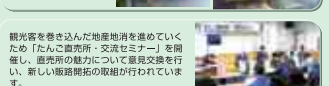
3次元ものづくりセミナー
機械金属分野での製品開発や、設計及び製造現場でのものづくり技術の向上とIT活用による製造設計プロセスの効率化を図る取組を進めています。



農林水産物の魅力拡大による丹後づくり

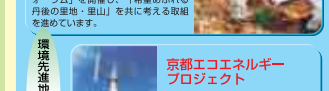
丹後農の魅力全開推進事業

エコファーマーによるアンテナショップを地元スーパーで展開し、こだわりの農産物をPRしました。



観光客を惹き込んだ地産地消を進めたい。「たんと」販売所・交流センターを開業し、産地間の結びつきを強化し、新しい販路開拓の取組が行われています。

茶の生産振興と「茶の匠 京丹後」
丹後産茶産地振興で、今年12haが新たに栽培される予定で、京丹波市での茶園面積は2ha増えます。また、新規に茶の栽培を始める人のために開設された「茶の匠 京丹後」によって、現在、5名の農家が茶の生産に必要な知識と技術を学んでいます。



たんと基礎整備・環境先進プログラム

地域の生活と産業を支え、活性化するための基礎整備の推進と環境先進地域をめざす丹後づくり

誰もが安心・安全に暮らせる丹後づくり

台風23号による被災箇所早期復旧

府民の皆さんの生命・財産を守るため、また安心・安全に暮らせるよう早期の災害復旧に取り組むとともに災害のないまちづくりを進めています。



里山の整備と保全

府民との協働による環境保全活動
丹後の自然を「知開く守り、如何に育てていくか」地域ぐるみで考え実践していくため、「丹波里山整備・保全プロジェクト」を開催し、「希望あふれる丹後の里山・里山」を共に考える取組を進めています。



京都エコエネルギープロジェクト
電力、太陽光、バイオガスなど新エネルギーの最適な組合せによる開発制御技術等の実証研究を民間企業と共同で実施しています。



たんと交流・定住促進プログラム

地域の魅力を活かし、交流・定住促進につなげていく丹後づくり

二地域居住のモデルづくりから本格実施へ



丹後「農のある暮らし」フロンティア推進調査検討事業
団塊の世代など「二地域居住」の受入を推進するため、モデル農園を設置し、都市からの農園モニターによる検証を行いました。意見交換会では、「栽培について指導して欲しい」など意見が出されました。

都市から農村定住へつなげる丹後づくり



伊根の田舎暮らし座談会
高齢化等で担い手不足の伊根町筒川地区で、冬の生活体験を希望された3組5名と河東見塚家住民7名が交流し、民家訪問で母ちゃん談話を行い、「丹後の田舎暮らし」の魅力を発信する取組を進めています。

分かりやすく、使いやすい丹後地域の公共交通ネットワークの実現

丹後地域では、KTRや路線バス等により公共交通ネットワークが作られています。

現在、利用後（住居、観光）からみて更に最適なものにたつよう関係市町や事業者の方々とともに現地調査を行い、協議を進めています。



交流ネットワークを広げる丹後づくり

鳥取県岡部自動車道(岡部川)道路の主要構造物(トンネル2カ所、橋梁2カ所)のうち、第1トンネル(仮称)〈延長570m〉が昨年11月に、第2トンネル(仮称)〈延長174m〉が本年3月に完成しました。

また、野田川大宮間については、事業着手に向けて調査を進めています。



誰もが希望を持って丹後づくり
社会とのつながりを広げる
高齢者対策推進調査検討事業
高齢者の社会参加活動を推進するため、地域の現状を座談会方式で聞き、その結果を元に、毎後者の能力を伸ばすフォーラムを開催しました。高齢者の力を発揮すること、情報の共有、地域・世代間交流、移動手段等課題の把握などの課題解決に取り組みます。

らぶらぶ丹後「ふるさと夢・未来」事業
若年の産地への育み、各産地が持つ将来の丹後を支える後継者の育成と地域の活性化を願い、丹後の魅力の再発見と将来の地域づくりについて考える取組を実施していきます。